

より多くの人々が納得できる合意形成を目指した話し合い活動の実践  
～クラス会議の理論に基づいて～

小千谷市立小千谷小学校

高橋 宇(27年度)

社会情勢として他者と協働・議論し「納得解」を生み出す力が求められている。その力を学校教育で育むためにはどうしたらよいか。本実践では、その力を「話し合いを通じてより多くの人々が納得できる合意形成」と捉え、その具体的な指導として、学級生活における諸問題を解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりする学習活動を設定した。

本学級は持ち上がりの6年生であり、昨年度より「クラス会議」に基づいた話し合いで学級における問題を解決してきた経験がある。しかし、昨年度の話し合いをふり返ると、多数決での合意形成後に少数派の児童に不満が残るなど、合意形成の在り方や個人・学級としての納得に課題があった。

そこで、今年度の話し合いは昨年度の話し合いに加えて以下のような手立てを講じた。

- (1)少数派の意見も大切にしていより多くの人々が納得できるようにするために、意見が割れた時の考え方を指導する。
- (2)投票場面において、自分の意思をより詳しく表現するためにICTを活用した投票方法をする。
- (3)合意形成後、どれくらい納得しているのか分析するために、個人・学級の納得度を可視化する。

以上の方策により、より多くの人々が納得できる合意形成のある話し合いを目指し実践を行った。